

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福島県須賀川市立長沼東小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒962-0124
福島県須賀川市榊衝字下沖58

E-mail naganumahigashi-e@fcs.ed.jp

Website https://sukagawa.fcs.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 62名 女子 60名 合計 122名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は「心身ともに健康で、すなおな心を持ち、主体的に学ぶ東っ子の育成」を教育目標に掲げ、ESD を地域の「ひと・もの・こと」との関わりを深めることと捉え、ESD の実践を通して、『ひと』との関わり…地域の人々と楽しくふれあう子ども・『もの』との関わり…地域にあるものを、興味を持って見つめる子どもを育てることを目標とした。

具体的には柱1地域「ふるさと 水と緑と歴史の長沼地区」を見つめ直し、そのよさを知るための活動として①金魚ねぶたづくりに係る活動、②そばづくり体験活動③菜の花プロジェクトなどを行った。柱2交流「ふれあい」では人との交流、植物の世話を通して心を育てる活動として④福祉に係る活動などを行った。

① 金魚ねぶた作りに係わる活動

6年生は昭和60年から始められた「長沼まつ」を調べることを通して、長沼(須賀川)の歴史について理解を深めていった。地域の方の指導を受けながら自分たちでも、金魚ねぶたを親子で作っていくなかで、さらに長沼地区についてよさを感じ取るだけでなく、伝統を作っていくよさを感じることができた。

② そばづくり体験活動に係る学習

3年生では地域の方の指導のもと7月に長沼の名産であるそばの種まきを行いながら、長沼がなぜそばづくりが盛んになってどんなそばがつけられているのかなどの調べ学習を行った。11月にはそばの実を収穫して、実際にそばの実にふれて形や様子を知ることからどうやってそばを作るかを調べ学習を行い「そば打ち」への意欲を高めた。そして、2月に学習のまとめとして地域の方の指導のもとにそば打ちを体験しておいしくそばを食べることができた。

地域の方とふれあいながら地域の名産についての理解を深めることができた。

③ 菜の花プロジェクトに係わる学習

4年生では前年3年生でまいた菜の花の採集やメガソーラーによる太陽光発電システムなど再生可能エネルギーについて学習しながら自分たちをとりまく環境についての理解を深めていった。学習のまとめとして、地域の科学館のスタッフの指導を受けながら自分たちで採集した菜の花を絞油機で絞って油をつくる作業を行った。採った菜種からどのくらいの量の油がとれるか予想をしながら楽しく絞り、その油でろうそくづくりを行ってさらに自分たちの環境を守ることにについて考えを深めることができた。

④ 福祉に係わる学習

3年生ではユニバーサルデザインについて学びながら、地域の福祉施設のスタッフや利用されている方々との関わりを通して、社会性を育むことや地域の福祉施設に関心をもつことができた。



金魚ねぶたづくり



そばづくり体験



菜の花プロジェクト



福祉活動 車いす体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

わたしたちの須賀川 須賀川のかんきょう

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の全体計画にユネスコスクールとして取り組んでいる目標の「地域・生命・ふれあい」を中核として位置付けている。

3年生から6年生の総合的な学習の年間指導計画では、6年生が「地域にあるものに関心を持ち、地域の人々と積極的に関わっていこうとする児童の育成。」を目標に定めているように、各学年の発達段階に応じて「ひと」「もの」との関わりを通して、地域とともに学ぶことができるようにしている。

指導内容を各学年で1冊の冊子にまとめ、気が付いたことなど反省点・改善点を加筆していくことで、誰が担任になっても指導方法の工夫改善を行うことができるようにして記録を累積している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

1・2年生の低学年ブロック、3・4年生の中学年ブロック、5・6年生の高学年ブロックでブロック会を行って内容や予定を話し合って取り組んでいる。管理職が話合いに適宜加わってアドバイスを行うだけでなく、各ブロックの内容の調整を行っている。決定した内容・活動予定は職員会議で確認されたり、次年度の教育課程の作成に生かされたりするようにして、継続的に活動に取り組む事ができるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部では、各ブロックの話合いでその都度活動内容を反省し自己評価していく。管理職は提出された週の指導計画にコメントを行い、改善を行っていく。外部では、学校評価にユネスコスクールとしての活動内容を位置付けて反省を行い、改善を行っていく。活動の実施時期などが反省に上がり改善された。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の予定や内容をホームページでその都度紹介するようにしている。児童の活動の様子を写真で分かりやすく伝えている。学校だよりでも活動でどんな成果が得られたかを発信している。成果として情報を継続して発信することにより、保護者の感想も継続して聞くことができた。そして、感想を内容の改善に役立てることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

須賀川市役所の地域振興課の方々には、継続して長沼地区の歴史や祭りを中心とした文化について地域に出かけて指導をいただいている。また、長沼公民館を中核として地域の学習ボランティアの方々には1・2年生の生活科での昔遊びの学習などに参加していただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

同じ須賀川市のユネスコスクールである白方小学校の授業公開や研究授業などに積極的に参加して情報交換を行うようにしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

「地域・生命・ふれあい」について6年間継続して地域で学んでいくことで、児童には自分たちのふるさと長沼・須賀川という意識が芽生えてきた。

地域に育てられた児童が地域をよくするためにどんな活動をしていけばよいかを考えて、実践するなかでさらに地域へのおもいを深めている。そのことが今後の地域の活性化につながっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

地域「ふるさと 水と緑と歴史の長沼地区」を見つめ直し、そのよさを味わう活動として、地域をテーマにした課題追求学習を行う。

交流「ふれあい」人との交流、植物の世話を通して心を育てる活動として、ムシテックワールドに行き他校や科学館スタッフとふれあう活動や「感謝の気持ちを伝えよう」として、周囲の人々への感謝の心を育てるための活動を計画する。

以上のことを行いながら、「学習課題設定力」として、学習素材に興味や関心を抱き、それらに身体や五感を使って積極的に関わるなかで問題を見つけ自分の課題を設定する力。「問題解決力」として、課題解決のための見通しや計画をもって活動したり、情報の収集・整理、分析、話し合いをして追求したりしながら自分の課題可決に向かって取り組む力。「表現力」として、発表内容に合った表現方法を活用し、自分の思いや考えを効果的に表現する力。を育てていく。